



故 岡本泰雄(三十三回忌)・故 政枝(十七回忌) 合同法要
[4月14日撮影]

しんらん同人

No,550

5・6
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

何かが変わる。何かが変わりそう。何か変わってほしい。人々の
思いを受けて、いよいよ今月から「令和」の時代が始まります
が・・・

この思いに水を差すわけではありませんが、「時」は今まで通りに
流れるのでしょうか。私達一人一人がお浄土に生まれさせていただくこ
とを感謝し、今を精一杯生き抜くことが大事な事であります。

さて、四月中旬に相次いで高齢者の運転による自動車・バスの事故
が発生しました。私も五十年余り、渋滞した道路や、高速道路を当
たり前のように運転を致しておりますが、事故を起こした時の事の重
大さ・安全運転の大切さを改めて思い知らされました。

お釈迦さまは「諸行無常・すべてのものは移り変わる」と示され
ました。しかし私達は「日常通り」「当たり前のように」「いつま
でも昔と変わらぬ元気」等々自分のいいように物事を考えて過ござ
います。

様々な区切りの節目において、日頃の自分の行動をかえりみて反省
しながら、感謝の思いをこめて新たな一步を踏み出す生活を送りたい
ものです。

浄土を願う人々



「歎異抄」第二条 おのおの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御ころぎし、ひとえに往生極樂のみちをといきかんがためなり・・・
関東から十余ヶ国の境を越えて、命がけで、京都におられる親鸞聖人のもとを訪ねた人々は、浄土を願う人たちであった。

ひとえに往生極樂への道を問い聞かんがためであった。それは京都見物、物見遊山といったものではなく、身命をかえりみずして、聖人を訪ねた人たちであった。

往生極樂の道を聞いた人たちは、確かに七百年昔の人であった。

その時代にはテレビもラジオも宇宙ロケットも考えられない時代であった。

つまり今日のような科学の時代ではなかった。だから、極樂とか浄土とかは今の時代の人々には受け入れられないといわれている。

キリスト教でも、神の存在を認めない者があるという。神も仏もないという考え方が現代の多くの人たちにある。

私はこうした考え方をする人たちと論議しようとは思わない。往生極樂の道を、過去の無知の人々に説いたつまらない話とあざ笑う人々や、浄土の教えを否定しようとする人たちをむしろ気の毒な人々と思っている。

往生極樂を信ずるお前は馬鹿なやつだと笑われても良い、非近代的だとそしられても良い、お浄土に参らせていただく身の幸せを喜ばせていただく者である。

私は私自身の頭で浄土を認めることは出来ない。全く分からない。しかし、如来の本願を聞く身にさせていだいたなら、本願に誓われた浄土、煩惱具足、罪悪深重の私のために成就されたお浄土に参らせていただくものと信じさせていだいている。

私の知識や力や値打ちによって行く世界ではない。如来の本願力によって参らせていただく世界である。

如来の救いは、遠い未来においてではない。南無阿彌陀仏のおわれを聞く身にならせていただく、今救われていることが知られる。如来の摂取の光明に包まれているのである。如来の慈悲のみ手に抱かれていたのである。

どこで何をしていても、いつも光の中である。光に包まれ、お慈悲に抱かれつつ行く世界は、光明無量、寿命無量の世界である。それが浄土である。

本願を信じ念仏申す者は、必ずお浄土に生まれさせていただくのである。

我が身が浄土に生まれさせていただくだけではない。浄土に生

まれて仏となり、迷いの世界に還ってきて、迷える人々を救う働きまで恵まれるのである。

浄土に生まれ往くことも、浄土から還り來ることも、すべて南無阿彌陀仏のはたらきである。

自らの力で浄土が願われるのではない。弥陀の本願を聞き、念仏申す身とならしめられてこそ、浄土を願う人となるのである。

坊守のひとりごと

誓願寺 坊守
古賀恭子

上京から今日までを振り返って

平成二十四年に福岡から上京し、あつという間の七年半でした。気付いてみれば坊守と呼ばれている自分がいます。

福岡にいた当時、坊守はお坊さん・住職を守り手助けをする人だと思っ
ていました。お坊さんではなく自坊・お寺を守る人だったのでね。

生まれ育った実家とはいえ、三十数年ぶりの里帰りです。すっかり変わった環境に戸惑うばかりの毎日でした。

少し落ち着いた頃の平成二十八年から二年間、三十年から一年間、持ち回りの順番だからと言われて、東京教区寺族女性会・北組寺族女性会の役員が回ってきました。

大任だと思いましたが、毎日お寺で留守番をしていた私にとって、大手を振って外出できる会議の当日は待ちどろしい日々でした。

知らない言葉が飛び交う会議でしたが、子育てで培った度胸と好奇心と

浄土を願うことは、永遠のいのちに生きることである。死ぬのではなく生き抜く身とならしめられることである。

この世あるかぎり、念仏申しつつ、世のため人のため、精一杯働かせてもらう。そのままが、如来の広大なご恩に報いる道なのである。愚かなものが、愚かなまま参らせていただく浄土。有難いことである。

笑顔で乗り切り、他寺の坊守さんとも親しくなれ、次第にお寺の内側に親しむことが出来るようになった気がします。大変な経験でしたが本当に有意義な三年間でした。

考える間もない上京で戸惑った私ですが、今では「なんと幸せ者だろう」と思います。あのまま福岡でケアマネージャーをしていたら、手を合わせることも忘れ、主人や子供達への感謝の気持ちも今のよう湧いてこなかったように思います。

きつと両親・兄・義姉が「このままではいけないよ」と東京へ呼んでくれたのでしょう。何といっても仏さまのお計らいですね。

今の楽しみは、一人でも多くのお同行とお寺でおしゃべりが出来ることです。

おいしいコーヒーを入れてお待ちしています。

なまんだぶ

(平成二十七年に得度をして坊さんになりました。)



【ご法座等のご案内】

5月

5・12
(日)

■午前十時

定例法座 【岡本信之師】

■正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

5・19
(日)

■午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

5・26
(日)

■午後一時

永代経法要・祥月命日合同法要

【濱畑僚一師】

6月

6・9
(日)

■午前十時

定例法座 【上野隆平師】

■正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

6・16
(日)

■午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

6・23
(日)

■午後一時

定例法座・祥月命日合同法要

【山本摂叡師】

編集後記

通信販売で「懐かしき 日本昔ばなし・全百話収録」を購入しました。法座の前に本堂内に流そうと思っ

ねずみのすもう。おんちよろちよろ。正直夫婦の馬。すずめの話。のっぺらぼう。くもの糸。河童徳利。たぬきの糸車。等々お楽しみ下さい。

四月十四日に「故岡本泰雄の三十三回忌。故岡本政枝の十七回忌」を無事執り行うことが出来ました。誓願寺の礎を築かれたお二人を、多くのお同行と偲び、今を自分らしく一生懸命に心豊かに生きようとの思いを新たにしました。



[法要の様子]



[法要後の食事会の様子]

三月に「行信教校」を卒業した長男明徳は、九月半ばまで半年間、京都の伝道院で布教使を目指して更に勉強することになりました。